

イチゴ育成系統「大分5号」の栽培技術

○上曾山大・安部貞昭¹⁾・山崎真居
(大分農林水産研指農研・¹⁾ 北部振興局)

【目的】

大分県におけるイチゴ主要品種「さがほのか」に対して、産地から糖度、果皮色、先絞り果の発生等品質改善に対する要望があがっていた。品種比較試験および県独自品種の育成を行う中で、収量、果皮色に優れる有望系統「大分5号」を育成した。県内における適応性を検討するなかで、本研究では、「大分5号」の特性を発揮できる栽培条件を明らかにすることを目的に、電照管理方法、施肥量、着果数および春先の追肥について検討を行った。

【材料および方法】

試験は2013年に標高150mの試験場圃場内雨よけハウスを用い、大分方式Y型高設栽培で栽培した。供試系統は「大分5号(「大分3号」×「さちのか)」を用い、9月13日に株間20cm、2条千鳥植え、外成りで定植した。栽培期間を通じて最低夜温6℃を確保した。

試験区の構成はそれぞれ以下の通りとした。

1) 電照管理

17時～7時の間で1時間当たり括弧内の時間で間欠処理①慣行より短め(「大分5号」の草勢に合わせた管理) 2013年11月11日開始(5分)→12月27日(10分)→2014年1月10日(15分)→3月3日(5分)→3月16日終了

②慣行(「さがほのか」の草勢に合わせた管理)

2013年11月11日開始(10分)→11月26日(15分)→11月27日(18分)→11月29日(20分)→12月13日(30分)→2014年2月20日(15分)→3月3日(5分)→3月16日終了

2) 元肥施用量

- ① 2割減肥 ② 「さがほのか」慣行施肥基準
- ③ 2割増肥

3) 頂果房～第2次腋果房の着果数

- ① 8果 ② 10果 ③ 15果 ④ 放任

4) 春先(4月以降)の追肥(100～200ppm)

- ① 減肥(0.5回/週) ② 慣行(1回/週)
- ③ 増肥(2回/週)

【結果および考察】

1) 電照処理時間の長さによる収量への影響はほとんどみられなかった(表1)。「さがほのか」の半分以下の電照処理時間で管理可能であることが明らかになった。

2) 元肥施用量が増えるにつれ収量が増えたが、大きな影響はみられなかった。(表2)

3) 着果数による合計収量および連続性への影響はみられなかった。(表3) 10果以内にすると大玉率は高くなったが、12～1月の収量が低下した(表3, 4)。

4) 4月以降の追肥による収量や連続性への影響はみられなかった(表5)。

表1 電照管理による可販果収量への影響(g/株)

	11月	12月	年内合計	1月	2月	3月	4月	5月	合計
短い	21	183	204	134	106	262	93	35	834
慣行	40	175	215	118	138	292	54	52	869
t検定結果	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	*	n. s.	n. s.

注) t検定結果 * : 5%水準で有意、n. s. : 有意差なし

表2 元肥施用量による可販果収量への影響(g/株)

	11月	12月	年内合計	1月	2月	3月	4月	5月	合計
元肥減	29	124 a	153	145	125	268	88	34	813
元肥基準	21	183 b	204	134	106	262	93	35	834
元肥増	29	163 ab	192	132	127	313	70	28	862
分散分析結果	n. s.	*	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.	n. s.

注) 分散分析結果 * : 5%水準で有意、n. s. : 有意差なし

表3 着果数による可販果収量への影響(g/株)

	11月	12月	年内合計	1月	2月	3月	4月	5月	合計
8果	22	159 a	181	24 a	125	252	54	58	694
10果	25	164 ab	189	41 a	110	270	95	56	761
15果	20	176 ab	196	106 b	126	286	55	28	797
放任	22	184 b	206	167 c	141	279	62	30	885
分散分析結果	n. s.	*	n. s.	*	n. s.	*	n. s.	n. s.	n. s.

注) 分散分析結果 * : 5%水準で有意、n. s. : 有意差なし

表4 着果数による果実の大きさへの影響

	大玉率 (果重%)	大玉率 (果数%)	平均果重 (g/果)
8果	76.5a	60.5a	23a
10果	71.5a	54.0a	22b
15果	64.0a	45.5b	21c
放任	61.0b	40.5b	20d
分散分析結果	*	*	*

注1) 分散分析結果 * : 5%水準で有意

注2) 20g以上の果実を大玉とする

表5 追肥による可販果収量への影響(g/株)

	4月	5月	4,5月合計
追肥減	67	33	100
基準	93	35	128
追肥増	93	30	123
分散分析結果	n. s.	n. s.	n. s.

注) 分散分析結果 n. s. : 有意差なし